れきはく通信 第６号

発行：新潟県立歴史博物館
（編集　岩瀬春奈）
2025 年 5 月 15 日

時の流れが創り出した古代ガラスのきらめき

令和７年４月 19 日より、当館では令和７年度春季企画展「The Ancient Glass 古代ガラスの３つの軌跡」を開催しています。本展覧会では、古代ガラスが、4000 年以上前のその発祥から各地に広まっていった軌跡を、メソポタミア、ペルシアを含む「古代オリエント世界」、古代エジプトやイタリア、ギリシアなどを含む「古代地中海世界」、古代中国を中心とした「東アジア世界」の３つの地域に分け、紹介しています。

古代ガラスの魅力は、作品ひとつひとつに込められた職人の繊細な技術や工夫の卓越さだけでなく、千年を超える時を経て、その表面が金色や銀色、虹色に変化する「金化・銀化」による輝きにもあります。当時のつくり手たちも思いもしないような偶然の作用が新たな「美」を創出しているのです。あたかも宇宙空間に輝く星々を観察しているかのような感覚を覚える作品「紫色金化球体細口瓶（ししょくきんかきゅうたいほそくちびん）」や、螺鈿細工のように、緑色地に金色や虹色の模様がちりばめられた作品「緑色浮出円形切子装飾碗（りょくしょくうきだしえんけいきりこそうしょくわん）」（写真１）など、時の流れが創り出した幻想的な色彩は観る者を魅了することでしょう。

きらめく古代ガラスを通して、様々なイメージを膨らませてみるのも、本展覧会の醍醐味の一つといえるかもしれません。

（写真１）緑色浮出円形切子装飾碗

地域：イラン

年代：サーサーン朝ペルシア５-７世紀

所蔵：平山郁夫シルクロード美術館

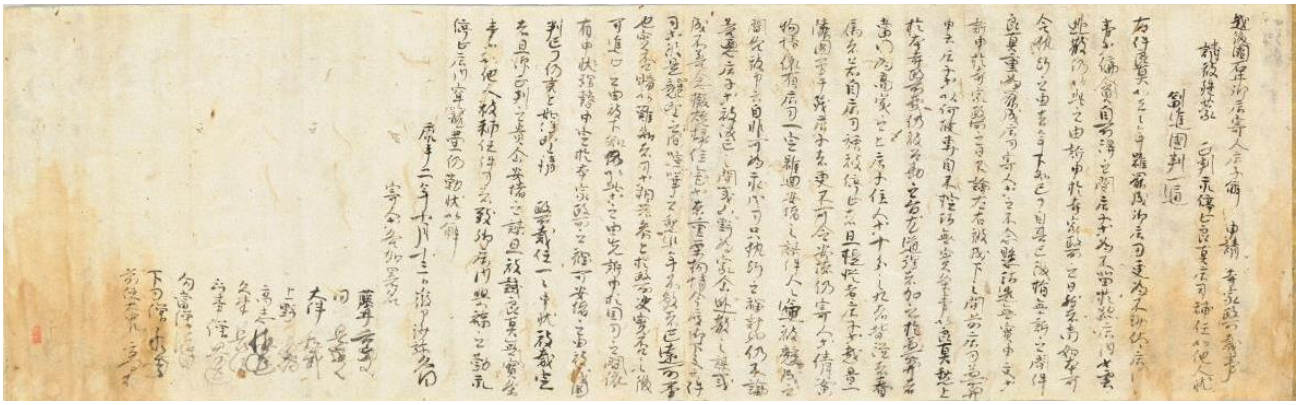
（永瀬史人）

館蔵最古の古文書

当館所蔵の古文書の中で最も古いものは何でしょうか。実は、平安時代の文書を１点所蔵しています。「越後国石井庄寄人庄子解（えちごのくにいわいのしょうよりうどのしょうしげ）」という康平 2(1059)年の年号を持つ文書です（写真２）。これは越後国頸城郡、現在の上越市近辺にあった東大寺領石井庄という荘園に関する一連の文書の一通になるもので、本来であれば東大寺が所蔵していたはずの文書です。いつの時代か、どのような経緯かは不明ですが、東大寺から流出し、まわりまわって当館の所蔵となりました。新潟県内に現存する文書の中でもおそらく２番目に古い年紀を持つものです。県内所在で最も古いのは、糸魚川市が所蔵する「散位藤原為賢公験紛失状」という寛弘２(1005）年の文書ですが、こちらは内容的に新潟県域とは特に関係のないもので、たまたま県内の所蔵者がコレクションしていたものです。

そう考えると、当館所蔵のものは新潟県域に関連し、なおかつ県内に所在する最古の文書といえるかもしれません。

なお、この文書は令和６年度に新たに新潟県の文化財に指定されました。令和７年度中に展示を予定していますので、その際にはぜひ当館に足を運んでいただき、千年近くも前に書かれた文書を実見してみてください。



（写真２）　「越後国石井庄寄人庄子解」

（参考文献）皆川完一「石井庄文書」（『正倉院文書と古代中世史料の研究』吉川弘文館、2012 年）

（浅井勝利）

（写真３）　『The Ancient Glass 古代ガラスの３つの軌跡』図録表紙

～編集後記～

「The Ancient Glass 古代ガラスの３つの軌跡」は６月８日までの開催です。初公開となる資料も多数あり、見応えのある展示となっております。本展の展示品が掲載されている図録も絶賛販売中です（写真３）。ぜひ、展示からは実物の古代ガラスを、図録からは高精彩な写真による色鮮やかで繊細な古代ガラスをご覧ください。

「れきはく通信」は、新潟県地域史研究ネットワークニュースと同報のほか、月末更新となる新潟県立歴史博物館のホームページでもご覧いただけます。不定期配信とはなりますが、お楽しみいただけますと幸いです。

ご意見、ご要望は新潟県地域史ネットワークニュース事務局までご連絡ください。

事務局メール　net@nbz.or.jp